

遅すぎた携帯トイレブース

藤このみ (Asahidake Trail Keeper)

2022年8月、私たちは旭岳9合目のニセ金庫岩に携帯トイレブースを作るため、木材を担いで運び上げていました。環境省東川管理官事務所から依頼された、旭岳に携帯トイレブースを設置してその効果を検証する、という業務の一環です。

毎日2往復して、ニセ金庫岩が近所のコンビニみたいな感覚になってきた3日目の午後。なんということでしょう。7合目付近、登山道の真ん中に、姿見駅で配られている地図が落ちています。地図の下には茶色い物体。

そう、うんこです。

どなたかやさしい方にひろわれますように、とばかりに。

絶望の表情で立ち尽くす相棒のジェレミー。私ジップロックあります！と叫ぶバイトのアイちゃん。しかし待て。2メートルの丸太3本背負った状態で、それはあまりにも危険すぎる。誰が見てもそれとわかる形状だし、たぶん拾われることはないだろうし、あと1時間寝かせてもきっと大丈夫。そう判断し、私たちはその場から逃げるように木材の運搬を済ませました。

再び現場に戻ると各自の持っているビニール袋状のものをかきあつめ、処理を開始します。

「くさい！くさい！」

「Damn! Damn…」

「スーパードスメル！」

「Yeah!!」

地図を引き剥がし、コロッケのように火山礫をまとったそれをできるかぎりよりわけてなんとか袋に包みます。完全に取り去ることは難しく、汚れてしまったかわいそうな石には砂をうまくまぶしてその場をおさめました。どのようなお気持ちでしょうか？こんなふう

に大騒ぎしながら排泄物をひろわれて。
しかし携帯トイレ普及宣言下の大雪山で携帯トイレを持っていなかったことは責められて然るべきとはいえ、生理現象ですからどうしてもなかったことなのでしょう。そして私たちは自分たちの仕事に並々ならない意義を感じたのでした。



ボランティアの大学生たちの協力もあり、この後無事に携帯トイレブースを設置完了。直後の台風も乗り越え、最も登山者の多い紅葉シーズンの約1ヶ月間、たくさんの登山者に使っていただきました。取り付けた使用回数カウンターの数値は2週間で125回。トイレ待ちの列ができていたこともあり、過剰に押された可能性を考慮してもそう遠くない回数利用されたと言えるでしょう。そして、もっと早い設置が必要だった！と思って愕然としました。今までちゃんと携帯トイレを持って登山している皆さんに申し訳なかったですね…。



この携帯トイレブース、ニセ金庫岩の裏に排泄物やティッシュの残置が多いのでこの場所にしましたが、とにかく風の影響が心配でした。まず頭の中で、よくある四角い木のトイレブースを建ててみました。建てた1週間後にバラバラに飛ばされていく光景が見えました。次にニセ金庫岩を掘ってくり抜いてみました。完成まで10年を費やしました。念のため環境省の方にも聞いてみましたが、岩をくり抜くのはよくないようです。わかっています。

そこで考えました。

- ・素材は無難な木材…
- ・風の影響を受けにくい形であること
- ・ある程度重いこと
- ・縦方向に強い構造であること
- ・周囲の景観を極力壊さない大きさと雰囲気であること
- ・空気や虫を閉じ込めないこと
- ・冬期は畳むので組み立て解体が簡単なこと

そんな条件から、丸太を結束バンドで繋いで作ることにしました。そのような構造の建物を見たことがなかったので、1/100程度の模型も作成。



しかし一番悩んだのはトイレブースを地面に固定するための杭でした。火山礫が降り積もってできている旭岳は、螺旋杭でも長さ 1m の鉄ピンでもスカスカです。摩擦係数の増大を求めていろんな杭を探した結果、くい丸という商品に行き着きました。太さも様々ありこれが非常に良いので、杭の緩みに悩まされているトイレブースビルダーの皆様におすすめです。

もう一つ悩んだことは、トイレブースのある風景でした。私は旭岳の曲線とゴツゴツが入り混じった、荒涼として何もない姿が好きです。携帯トイレブースは必要だと思っていましたが、そこにいかにもトイレな直方体が設置されることは抵抗がありました。幸いにも強風対策を隠れ蓑に丸いトイレを思いつき、時間がないのを言い訳にきれいに整いすぎないトイレを目指しました。これは個人の感覚によるので、直方体トイレの何が悪いかわからない、という人もいれば、形にかかわらずトイレなんか嫌い！という人もいるでしょう。しかしトイレ問題については比較的簡単です。排泄物が散乱するよりは散乱しない方がいいのは確実だからです。では登山道はどうでしょうか。

旭岳トレイルキーパーは、普段は登山道を直しています。抉れてしまった場所に石を組み上げて階段にしたり、水を登山道の外に出すための排水路を作ったり、木道を新しくしたり、といった仕事です。



登山道の維持には重要な、植生を回復させるための試験施工もしています。施工が適切であれば植物は登山道のすぐ脇まで戻ってきます。植生が正しい手順で復活すれば、そこは崩れ難くもなるのです。

こうやって石や植物たちと毎日仲良く暮らしていると間違われることがあります。私たちは山や自然を守っている訳ではありません。私たちが実際にやっていることは、人間が見て綺麗だ貴重だと感じる山の姿と、それを体験するための道を維持することです。山そのものをこのまま維持しようというのならもう全員立入禁止ですし、山も自らの活動を止めなければなりません。なので植物たちとの会話があるとすると、

「きみたちの場所を守ってあげるからね！」

「ありがとう！」

ではなく、

「なるべくあんたたちが居やすい場所つくるから、お仕事お願いしますよォ。」

「しょうがねえなァ、そのかわりすぐ壊れるようなのはなしですぜエ。」
という感じです。

話を戻します。例えば、間宮岳で例年と少し違った気象状況や道の補修方法か何かが原因で登山道の周りが大きく崩れ、寒い高山帯でのみ見られる貴重な構造土が崩壊する可能性があります。このときその崩壊を食い止めようと、流出した土砂をプラスチックの枠に入れたもので登山道の壁は埋め立てられました。これはまさに人が見たいものの維持のために、山にロボットミ手術を施したといった様相でした。皆さんはこれをどう思うでしょうか？私の感想はやりすぎ厳禁！です。手を加えることに反対な訳ではないですが、時間をかけて安定勾配に向かうための手伝いをする程度がちょうど良いのではないかと、私は思います。登山道付近の構造土は失われるかもしれませんが、再び山が噴火しても構造土は失われるのです。

このような問題はこの場所に限ったことではありません。これについてはトイレ問題と違って、やりすぎ！もっとやれ！わからない！様々な意見があるのではないのでしょうか。ちなみに私の知人は「あんなの山じゃないよ！」と怒っていらっしゃいました。

今回、このトイレブース業務の中で、登山者に携帯トイレに関するアンケート調査を行いました。詳細は東川管理官事務所から発表されると思いますが、アンケート結果全体の印象は、「携帯トイレはどうやら普及してきているが、わかっているけど持参しない人が結構多い」でした。（携帯トイレを持参した登山者は全体の約6割、登山中に使用した登山者は全体の約2割。）持参しなかった理由で最も多かったのは「登山時間が短いので必要と思わなかった」ですが、次に多かったのが「使える場所がないと思った」です。携帯トイレブースの必要性をここでも実感しました。

そして携帯トイレブースの設置と同時に重要なのが、携帯トイレが買えることです。旭岳では、最も登山者の多い早朝の時間帯に携帯トイレの販売がされていないことが問題だと思っていました。そこで旭岳トレイルキーパーで製作したのが、携帯トイレ自動販売機です。



この箱の中にトレイルキーパーのあいづが入っていて、お金を入れたら携帯トイレをそっと差し出してくるらしい…と囁かれていましたが、無電源カラクリ式の、ガチャガチャみtainなものです。100円玉と500円玉のみ使えます。

製作にも設置にも少々時間がかかりましたが、旭岳自然保護監視員業務を行なっているNPO 法人大雪山自然学校さんが買い上げて運用して下さい、旭岳ロープウェイさんのご協力もいただき、今年度ロープウェイ姿見駅で役目を果たしている姿を見ることができました。時々エラーも起こっていたようですが、携帯トイレの販売数は前年比で3倍以上になりました。(データ提供：大雪山自然学校「大雪山国立公園保護協会受託事業」)

総合サービス製「大雪山国立公園オリジナル携帯トイレ」用の自販機ですが、必要な山の方々がいらっしゃいましたら、また作るかもしれないのでご相談ください。宣伝でした。

そしてニセ金庫岩トイレブースと併せて設置計画を進めていた裏旭野営指定地にも、2023年度ついに携帯トイレブースが設置となるかもしれません。この場所は鞍部で風が集まります。以前設置されたトイレブースが1シーズン持たずに跡形もなく吹き飛ばされたこともあり、ニセ金庫岩以上の風対策が必要になりそうです。

最後に、トイレブースの材料運搬を手伝ってくれたボランティアの皆様、ボランティアを派遣してくれた大雪山自然学校さん、度々トイレブースの点検清掃をしてくれたお馴染みボランティアのFさんたち、次々持ち込まれる丸太を運んでくれた旭岳ロープウェイの方々など、皆様ありがとうございました。またよろしくお願いします。

